



Veritas In Silico

Bringing new hope with mRNA-targeted drugs

2024年12月期 決算説明資料

株式会社Veritas In Silico

証券コード: 130A

2025年2月13日



免責事項

本資料は、株式会社Veritas In Silico(以下「当社」といいます。)の会社情報の説明のみを目的として当社が作成したものであり、日本国、米国その他の一切の法域における有価証券の買付け又は売付け申し込みの勧誘を構成するものではありません。日本国、米国その他の法域において、適用法令に基づく登録若しくは届出又はこれらの免除を受けずに、当社の有価証券の募集又は販売を行うことはできません。

本資料の作成にあたり、当社は当社がその作成時点において入手可能な情報の真実性、正確性及び完全性に依拠し、かつ前提としており、将来情報、外部データ等については、その真実性、正確性及び完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。

将来の事業内容や業績等に関して本資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、「目指す」、「予測する」、「想定する」、「確信する」、「継続する」、「試みる」、「見積もる」、「予期する」、「施策」、「意図する」、「企図する」、「可能性がある」、「計画」、「潜在的な」、「蓋然性」、「企画」、「リスク」、「追求する」、「はずである」、「努力する」、「目標とする」、「予定である」又は将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他の類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、本資料作成時点において入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいて作成しており、これらの記述の中には、様々なリスクや不確定要素が内在します。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の将来における事業内容や業績等が、将来に関する記述に明示又は黙示された予想とは大幅に異なることとなる可能性があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。

2024年12月期通期ハイライトおよび2025年12月期の業績予想

mRNA標的的低分子創薬事業(プラットフォーム型ビジネス)は順調に推移

創薬プラットフォームibVIS®を活用し製薬会社4社との共同創薬研究を実施中
武田、塩野義とのマイルストーン達成、ラクオリア創薬と目標とする特性を細胞レベルで示す低分子化合物を複数取得する等の成果を得た

ハイブリッド型ビジネスへの転換に向けて自社パイプラインを創出できる体制を整備

かねてより進めていた当社独自の核酸医薬品の研究を本格化し、核酸医薬品のパイプライン事業化に向けて取り組み中
低分子医薬品の自社パイプライン創出の実現性を高めるため、2024年12月に英国LCC TherapeuticsとmRNA
標的的低分子医薬品の共同開発及び商業化契約を締結

通期の事業収益は194百万円、純損失は236百万円

事業収益は、期ずれによって新規の契約一時金がなく、研究支援金、マイルストーン収入等により194百万円を計上
自社パイプライン構築のために増加した事業費用407百万円、上場関連費用等22百万円等の計上により、当期純損失は236百万円

2025年12月期は黒字回復を見込む

事業収益は、新規の製薬会社との共同創薬研究契約締結に伴う契約一時金等により前期比で593百万円の増収、
事業費用は、研究開発費等の増加により前期比で217百万円増加を予想、当期純利益は168百万円を見込む



Contents

- 1 ビジネスモデル
- 2 事業ハイライト
- 3 財務ハイライト
- 4 成長戦略
- 5 事業概要

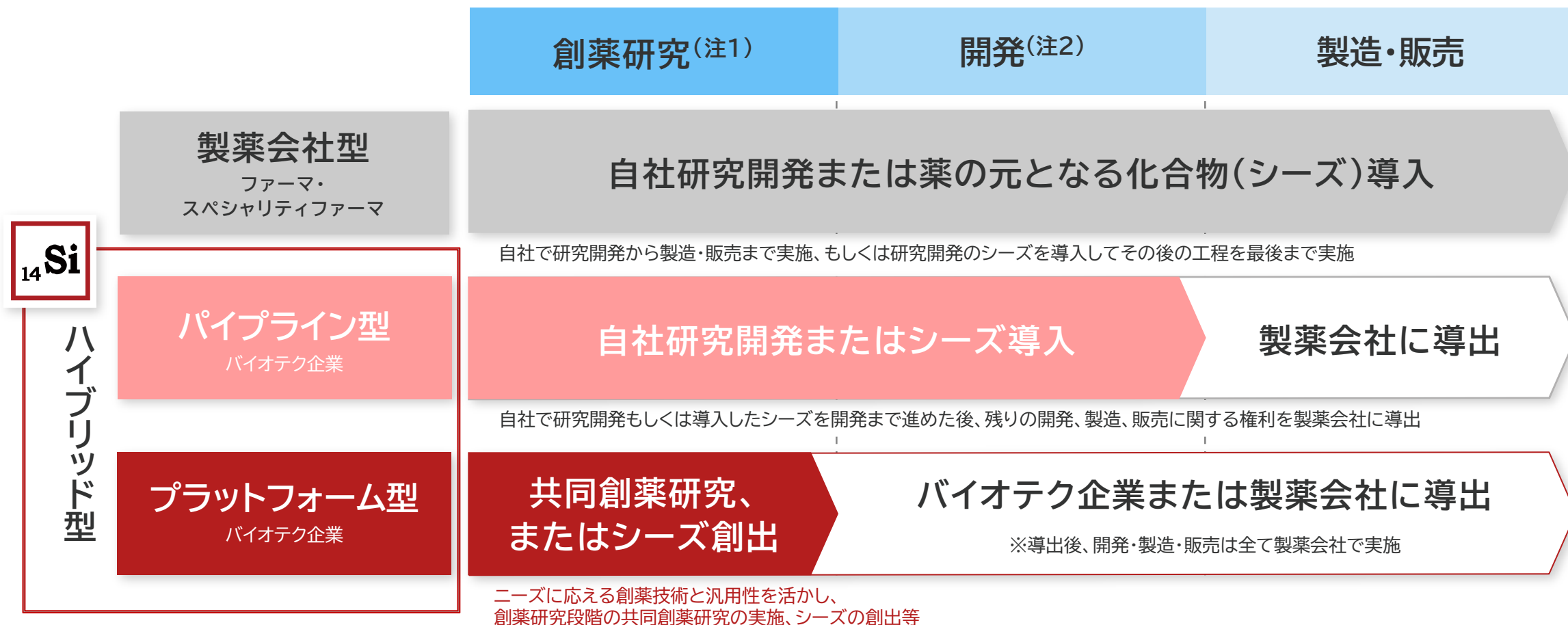


1 ビジネスモデル

Business Model

技術力を活かし、プラットフォーム型ビジネスからハイブリッド型ビジネスへ

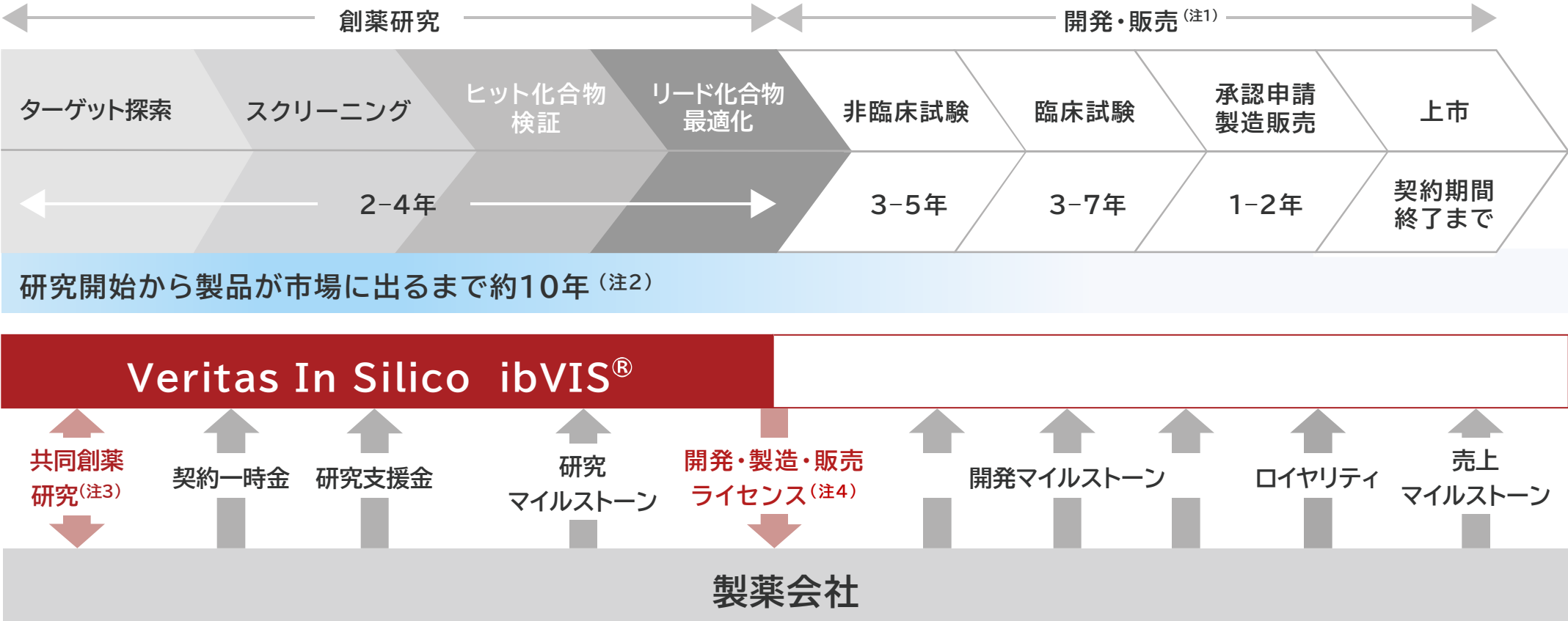
当社は幅広いニーズに応えるmRNA標的 low molecular weight 創薬の技術力を武器として、プラットフォーム型ビジネス(独自の基盤技術を、共同創薬研究等を通じて複数の製薬会社へ提供)を展開している。プラットフォーム型ビジネスで培った技術力を活かし、自社でもパイプラインを創出するハイブリッド型ビジネスへの展開を開始



(注1) 創薬研究は、医薬品として十分な効果・安全性等を示す医薬品候補化合物を創出するまでの段階
(注2) 開発は、創薬研究で取得した医薬品候補化合物の効果・安全性等を規制当局に証明していく段階

創薬研究の初期から長期にわたり安定した事業収益を実現

当社と製薬会社との共同創薬研究契約では、当社の創薬プラットフォームibVIS®の使用に対して創薬研究の初期から事業収益が得られる
このプラットフォーム型の契約の締結により、開発・製造・販売権のライセンス以降も創薬研究における当社の貢献に応じた収益が得られる

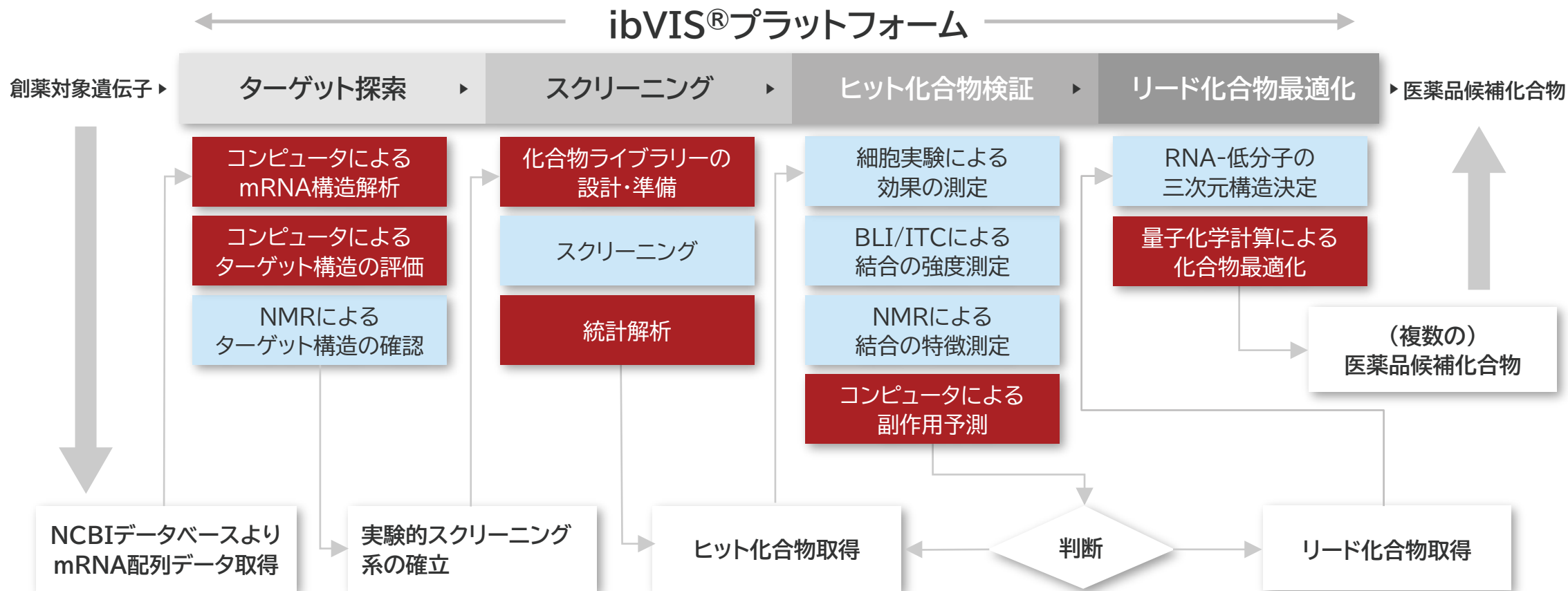


契約一時金	契約締結時に一時金として受け取る事業収益
研究支援金	研究実施等に対する対価として創薬標のごとに受け取る事業収益
マイルストーン	研究・開発・売上の進捗に応じて、事前に設定したイベントを達成した際に受け取る事業収益
ロイヤリティ	医薬品販売開始後に年間の売上高に応じて受け取る事業収益

(注1) 現時点(2024年12月末現在)、製薬会社による開発・販売ステップにまで進んだ実績はありません
(注2) 上市までの期間については、実際の研究開発状況により大きく異なる可能性があります
(注3) ibVIS®を使用した当社と製薬会社の協業は、創薬研究期間中に限られます
(注4) 開発・製造・販売ライセンスに関する取り決めについては、共同創薬研究契約に盛り込まれる場合があります

ibVIS[®]は技術検証と実績で裏打ちされたワンストッププラットフォーム

ibVIS[®]は一連の創薬技術とデジタル技術より成り、mRNA配列データから医薬品候補化合物の取得までワンストップで実行可能となっている
既に、ヒット化合物検証までは共同創薬研究等で実績があり、リード化合物最適化の技術は社内研究により実効性を証明している



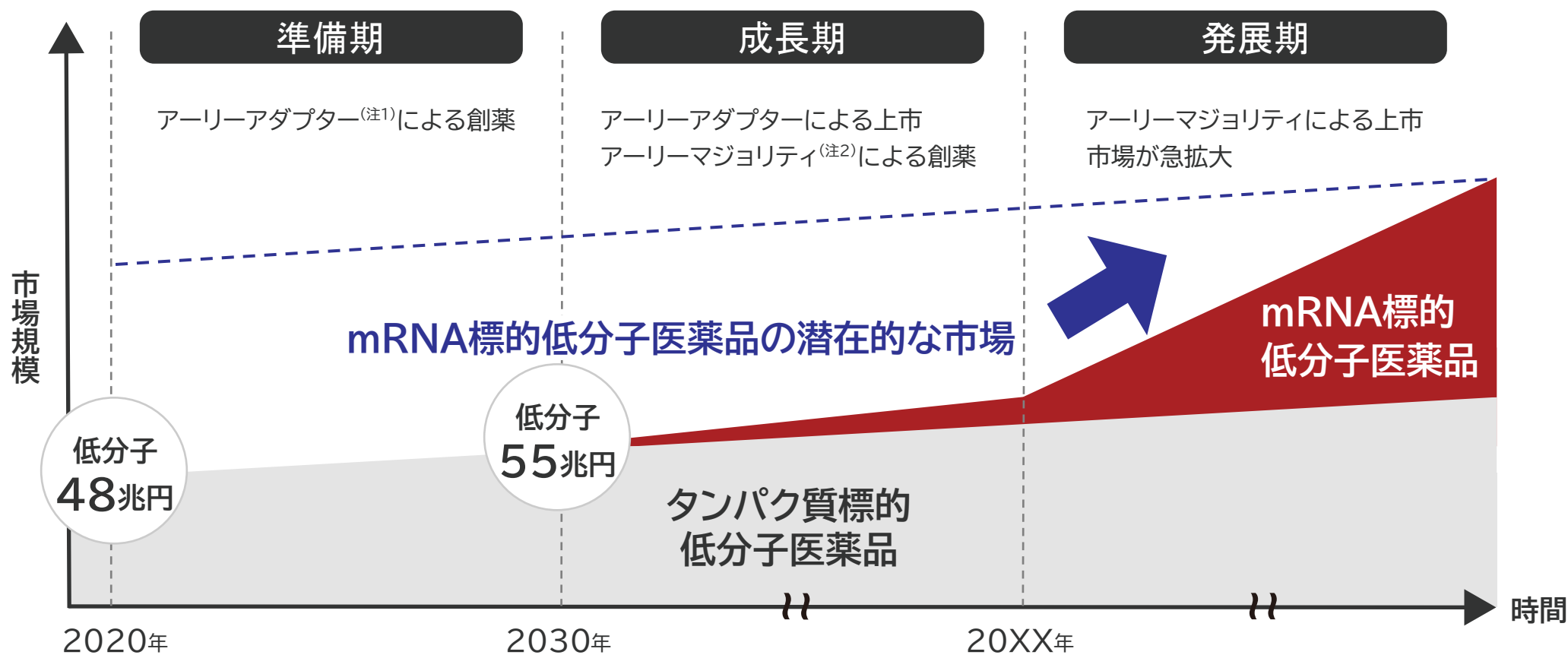
(注) 共同創薬研究において製薬会社は、当社が技術供与したスクリーニング法を使ったスクリーニングの実施および細胞実験を主に担当する
加えて製薬会社側では化合物の合成展開、薬物動態及び安全性研究、化合物の効果を検証する動物実験などが実施される

デジタル技術

創薬技術

タンパク質標的に匹敵するmRNA標的低分子医薬品の潜在市場

mRNA標的低分子創薬は現在**準備期**。当該創薬により低分子医薬品が市場に出れば、“Undruggable”だった疾患に対して研究開発が一気に広まるため**(成長期)**、mRNA標的低分子医薬品の市場は、将来的にタンパク質標的低分子医薬品に匹敵する大きな医薬品市場となることが期待できる**(発展期)**

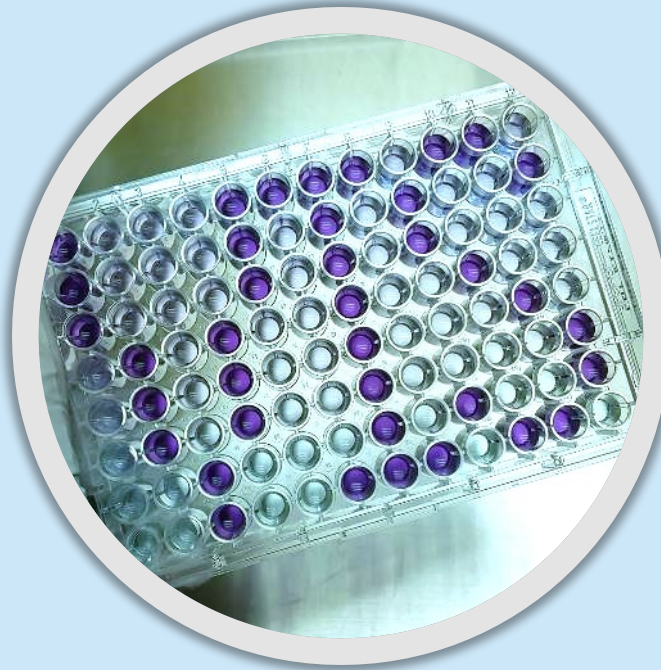


(注1) 初期採用者とも呼ばれ、イノベーター(革新者)の次に商品やサービスを購入する人々

(注2) 前期追随者とも呼ばれ、アーリーアダプターからの影響を受ける人々

出典: 当社推定

低分子医薬品の市場規模(※)は、内閣官房 健康・医療戦略室委託事業
「令和二年度 医薬品・再生医療・細胞治療・遺伝子治療関連の産業化に
向けた課題及び課題解決に必要な取組みに関する調査報告書」より抜粋



2 事業ハイライト

Business Highlights

2024年12月期の事業進捗

3月

核酸医薬品の自社 パイプライン創出に 向けた取り組み

三菱ガス化学との共同事業に先行して、より効率よく活性の高い核酸医薬品を取得するための自社研究を本格化



6月

マイルストーン達成

複数の疾患を対象としたmRNA標的的低分子医薬品の創出を目指す武田薬品との共同創薬研究において、研究段階における最初のマイルストーンを達成



6月

化合物探索が順調 に進展

がんを対象としたmRNA標的的低分子医薬品の創出を目指すラクオリア創薬との共同創薬研究において、細胞実験で目標とするプロファイルを示す複数の低分子化合物を取得



9月

マイルストーン達成

感染症及び精神・神経系疾患を対象としたmRNA標的的低分子医薬品の創出を目指す塩野義製薬との共同創薬研究において、創薬研究の進捗に伴うマイルストーンを達成



12月

共同開発及び商業 化契約締結

英LCCと当社共有のパイプラインの構築を意図して、がん疾患、中枢神経系疾患等を対象としたmRNA標的的低分子医薬品の創出から将来の商業化までを目指したプロジェクトを開始



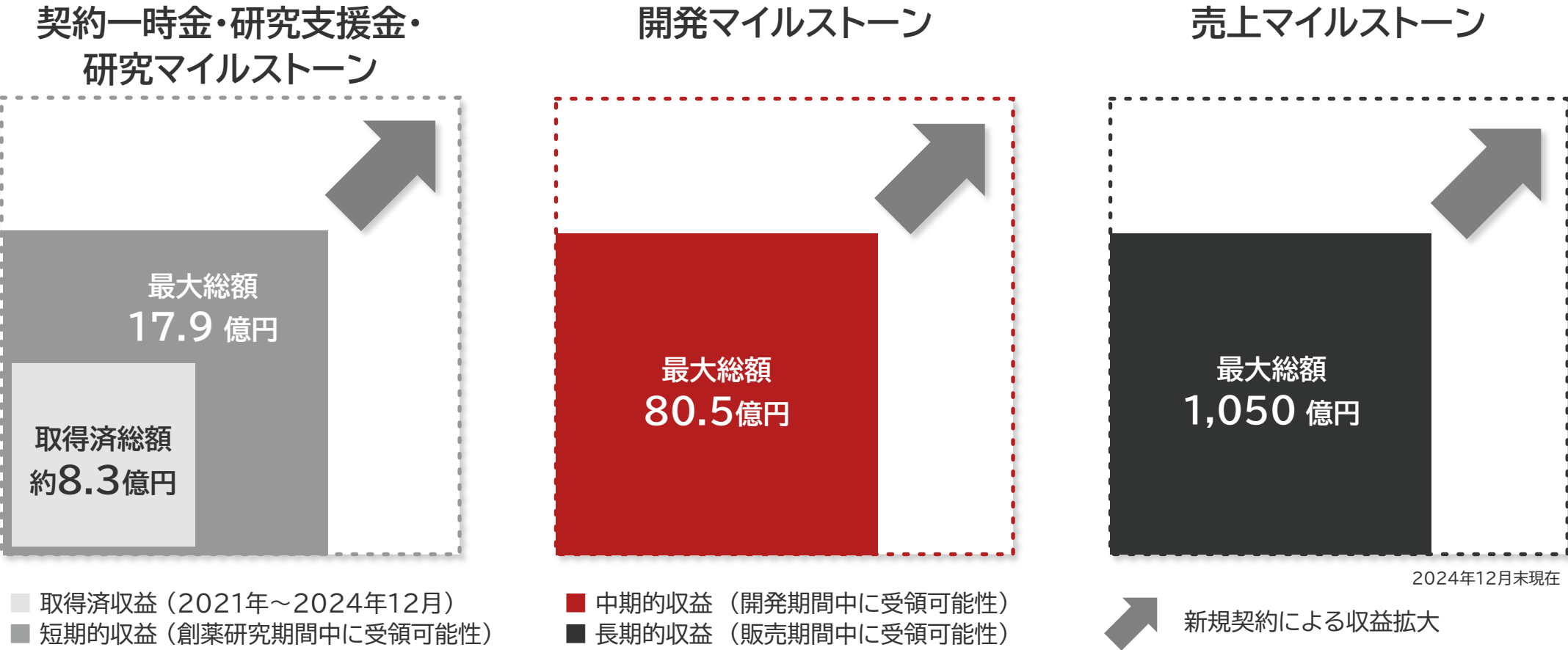
各製薬会社との共同創薬事業において実績が積み上がっている

主な提携先	提携時期	対象疾患	創薬研究進行段階	経済条件
 Innovation by Chemistry	2021年7月	非開示	 製薬会社との共同創薬研究で最も進んでいるプロジェクトは「ヒット化合物検証」の段階	・ 契約金非開示 ・ VIS化合物持分あり^(注)
	2021年11月	感染症 精神・神経系疾患		・ 契約金最大850億円 ・ ロイヤリティあり
	2022年12月	がん領域		・ 契約金非開示 ・ ロイヤリティあり
	2023年6月	非開示		・ 契約金非開示 ・ ロイヤリティあり

(注) 東レとの共同創薬研究では、医薬品候補化合物の権利は東レと当社で共有し、当社は化合物の持分に応じた収益を受領する

プラットフォーム型ビジネスの収益ポテンシャル

既存の共同創薬研究契約にもとづき短期的(創薬研究期間中)、中期的(開発期間中)な事業収益源を確保している
医薬品が上市された場合には、長期的(販売期間中)に販売額に応じたマイルストーン収入のほか、数%のロイヤリティ収入(下図に含まれない)が見込まれる



(注)取得済総額は、共同研究により取得した収益を含む。マイルストーンは、いずれも既存のプロジェクトが全て成功した場合の最大値を示している
創業の成功確率は相対的に高くはなく、現実的に全てのプロジェクトが成功するわけではない点に十分留意が必要である

英国LCCとのmRNA標的low分子医薬品の共同開発及び商業化契約締結

英国LCC Therapeutics (2025年1月に、Liverpool ChiroChem Ltd.より社名変更)は、低分子化合物を迅速に合成する斬新な化学プラットフォームを保有
独自の創薬プラットフォームを有する当社が、化学プラットフォームを強みとするLCCと提携する事で、効率的な低分子医薬品のパイプライン創出が可能に

URL: <https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS82025/2c923708/dabf/416d/ae72/4335460bd217/140120241220542045.pdf>



共同開発及び商業化契約の狙い

LCCの高度な化学プラットフォームPACE™と
当社のmRNA標的low分子創薬プラットフォームibVIS®を活用

両社の技術力を活かし、がん領域など市場が大きくブロックバ
スターを狙える医薬品を創出する

効率的なmRNA標的low分子医薬品のパイプライン創出を
目指し、取得した化合物の権利を両社で保有

2024年12月期 講演・展示会への参加

新規契約の締結を目指し、パートナー候補となる製薬企業との新たな接触を求め、国内外の展示会等で積極的にアピールを行った

ジャパン・ヘルスケアベンチャー・サミット2024



2024年10月9日～11日の3日間、パシフィコ横浜にて開催された厚生労働省主催「ジャパン・ヘルスケアベンチャー・サミット(JHVS)2024」に企業ブースを出展した

会期1日目のJHVS SHOWCASE①では、当社のmRNA標的の低分子創薬事業について紹介し、当社の業界への露出を加速した

BIO-Europe 2024 Company Presentationsセッション



2024年11月4日～6日の3日間、スウェーデン・ストックホルムにて開催されたBIO Europe 2024に、代表取締役社長中村とCSO森下が参加した

初日のCompany Presentationsセッションでは、CSO森下が登壇し、製薬業界の新たなパラダイムになりえるmRNA標的の低分子創薬のポテンシャル及びそれを実現する当社プラットフォーム技術について講演した。合わせて、欧州製薬会社等と面談し、欧州での事業開発基盤の構築に力を注いだ

第41回メディシナルケミストリーシンポジウム

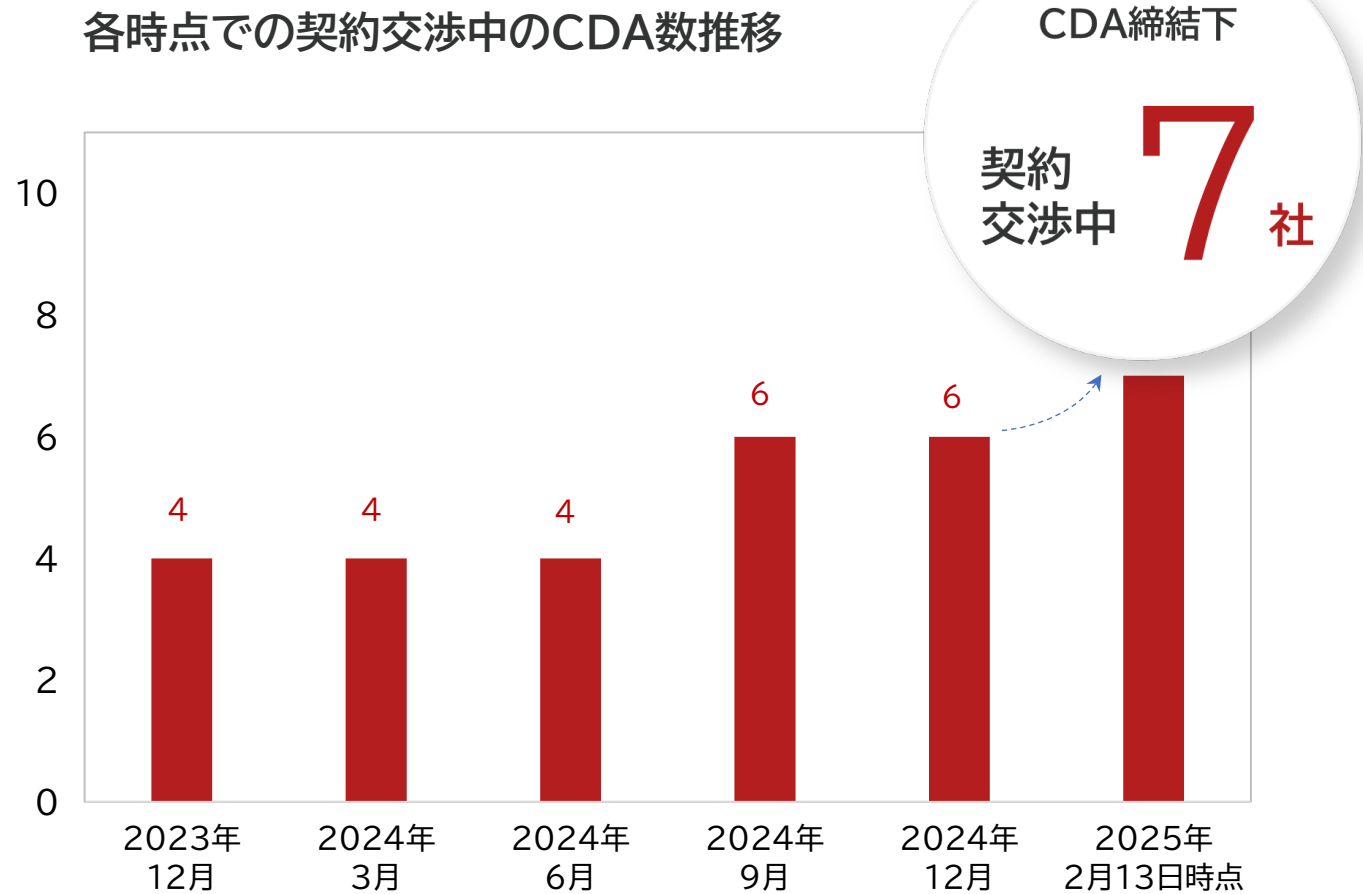
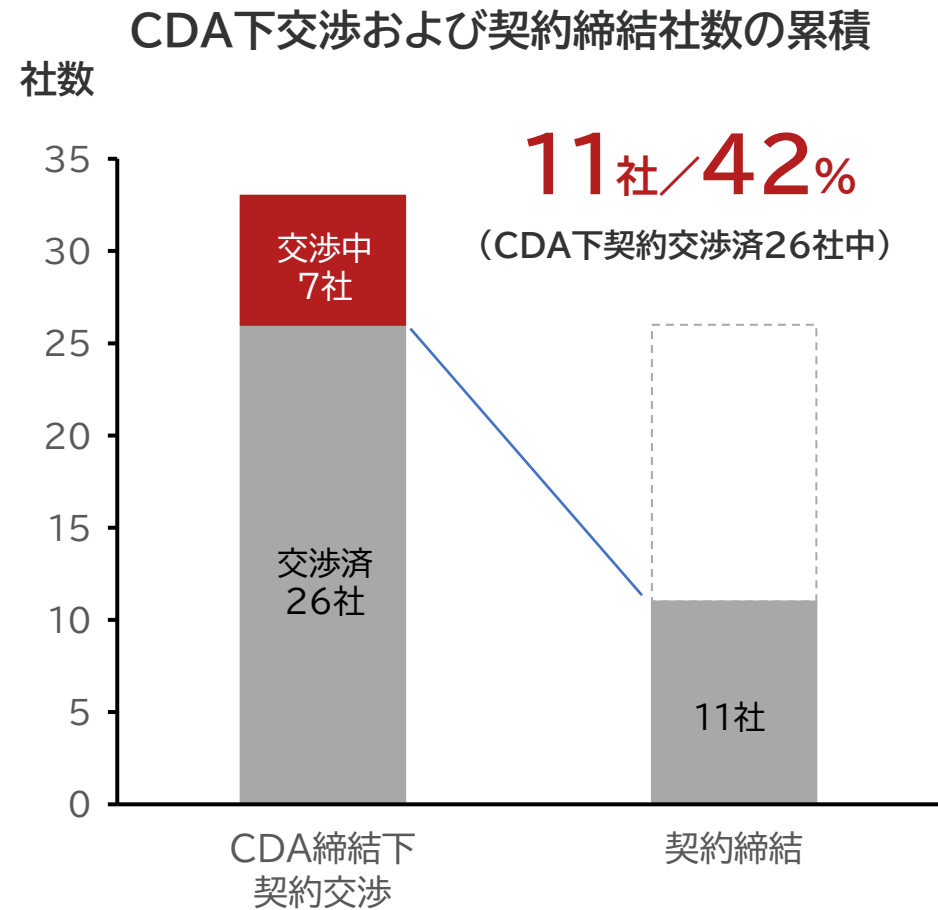


2024年11月20日～22日の3日間、京都テルサにて開催された第41回メディシナルケミストリーシンポジウムに参加した

会期二日目には、代表取締役社長中村による招待講演があり、多くの参加者に聴講いただいた。同日行われたポスター討論会では、主任研究員大津が当社プラットフォーム技術について発表し、多くの参加者にご覧いただいた。合わせて、企業展示ブースも出展し、国内外の製薬会社が多数参加する本学会にて多角的に当社技術のアピールを行った。

年間2社との新規契約締結に必要な秘密保持契約数の確保

秘密保持契約(CDA)を締結した製薬会社のうち、交渉の結果契約締結まで至った確率は約42%、CDA締結から契約締結に至るまでの期間(中央値)は 14 か月
2025年以降も毎年2社と契約締結するため、その数を期待できるCDA数を確保するように事業開発を合目的的に展開している





3 財務ハイライト

Financial Highlights

2024年12月期 通期業績概要

mRNA標的低分子創薬事業にて各パートナーとの共同創薬研究が各々順調に進捗、事業収入はマイルストーン収入、研究支援金等、合計194百万円を計上
最終的に2024年度は赤字だったが、年度内に見込んでいた契約締結が期ずれしたためであり、2025年度は黒字回復を目指す

(要約)損益計算書 (単位:百万円)

	2023/12期 実績	2024/12期 業績予想※	2024/12期 実績
事業収益	360	189	194
事業費用	322	403	407
営業損益	37	△214	△212
営業外損益	△1	△21	△20
経常損益	35	△235	△233
当期純損益	33	△238	△236

主な内訳 (単位:百万円)

うち マイルストーン収入 90
研究支援金等 104

うち 研究開発費 172
販売費及び一般管理費 235

うち 上場関連費用 12
新株発行費用 9

※2024年12月13日に「2024 年12月期 通期業績予想の修正に関するお知らせ」で発表した業績予想

四半期業績の推移(FY2023Q3～FY2024)

(要約)四半期会計期間損益計算書 (単位:百万円)

QoQ	FY2023 Q3	FY2023 Q4	FY2024 Q1	FY2024 Q2	FY2024 Q3	FY2024 Q4
事業収益	29	81	32	83	49	29
事業費用	80	83	97	85	104	120
営業損益	-51	-2	-65	-1	-54	-91
営業外損益	-1	0	-22	0	0	1
経常損益	-53	-1	-87	-1	-54	-90
四半期純損益	-53	-2	-87	-2	-55	-90

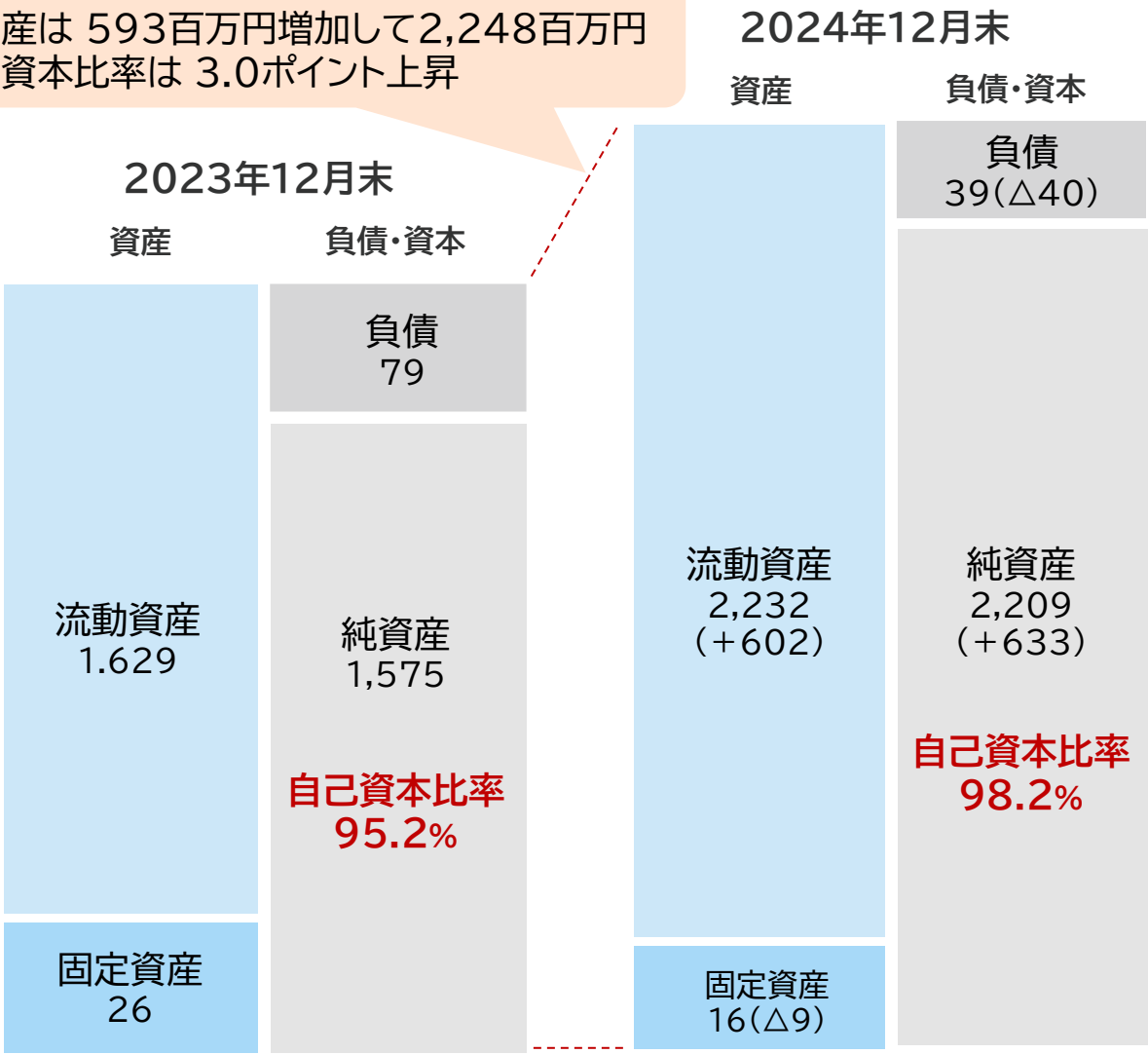
財務状況の推移

東証上場時の公募増資等により、流動資産が増加、自己資本比率が上昇
資本金は 2024年4月の減資により減少

貸借対照表の推移 (単位:百万円)

	2023/12期末	2024/12期末
現金及び預金	1,549	2,173
流動資産合計	1,629	2,232
有形固定資産	23	14
固定資産合計	26	16
資産合計	1,655	2,248
負債合計	79	39
資本金	90	77
純資産合計	1,575	2,209
負債純資産合計	1,655	2,248

総資産は 593百万円増加して2,248百万円
自己資本比率は 3.0ポイント上昇



2025年12月期 通期業績予想

2025年度の事業収益は、新規の契約締結による契約一時金等により、788百万円の計上を見込む
研究開発費等の増加による事業費用の増加が見込まれるものの、2025年度は黒字回復を目指す

(要約)損益計算書 (単位:百万円)

	2023/12期 実績	2024/12期 実績	2025/12期 予想
事業収益	360	194	788
事業費用	322	407	625
営業損益	37	△212	163
営業外損益	△1	△20	7
経常損益	35	△233	170
当期純損益	33	△236	168

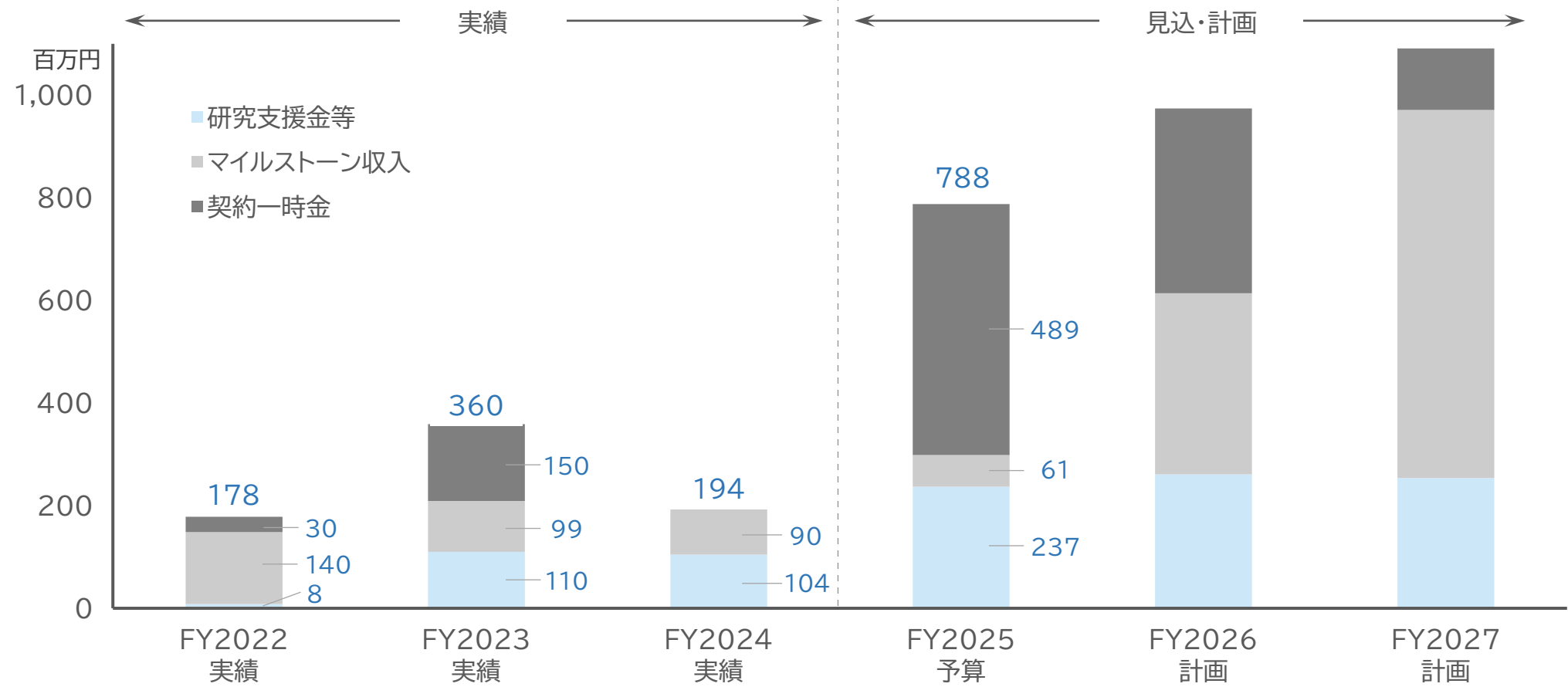
主な内訳 (単位:百万円)

うち 契約一時金 489
マイルストーン収入 61
研究支援金等 237

うち 研究開発費 331
販売費及び一般管理費 293

各年度 事業収益の実績及び見込/計画

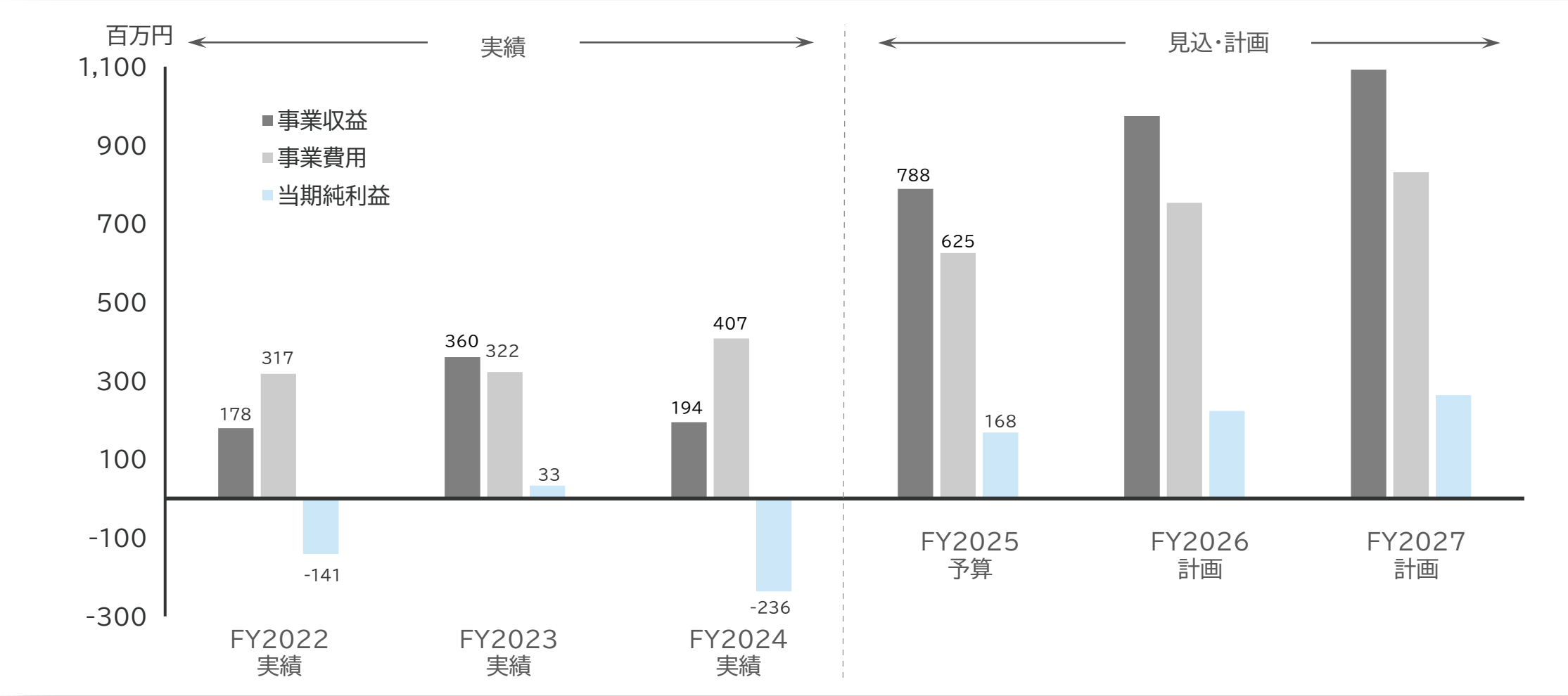
2024年度は、締結を見込んでいた新規契約が2025年度中の締結見込みとなったことから、契約一時金等の収入が減少
2025年度以降は、各年度にて複数の新規契約を締結するとともに、共同創薬研究を着実に進捗させ、事業収益の拡大を図る方針



(注) グラフの2025年度から2027年度は、契約締結が見込める顧客・案件別の期待収益額の積み上げをもとに作成しています。計画の数値は非開示

各年度 収支の実績及び予算/計画

2024年12月期は、人員の増強による固定費増加と自社パイプライン創出に向けた準備のための追加研究費により、事業費用が前年度比で増加
2025年12月期以降の中期経営計画期間中、新規契約の締結やマイルストーン等の達成により黒字回復を図る





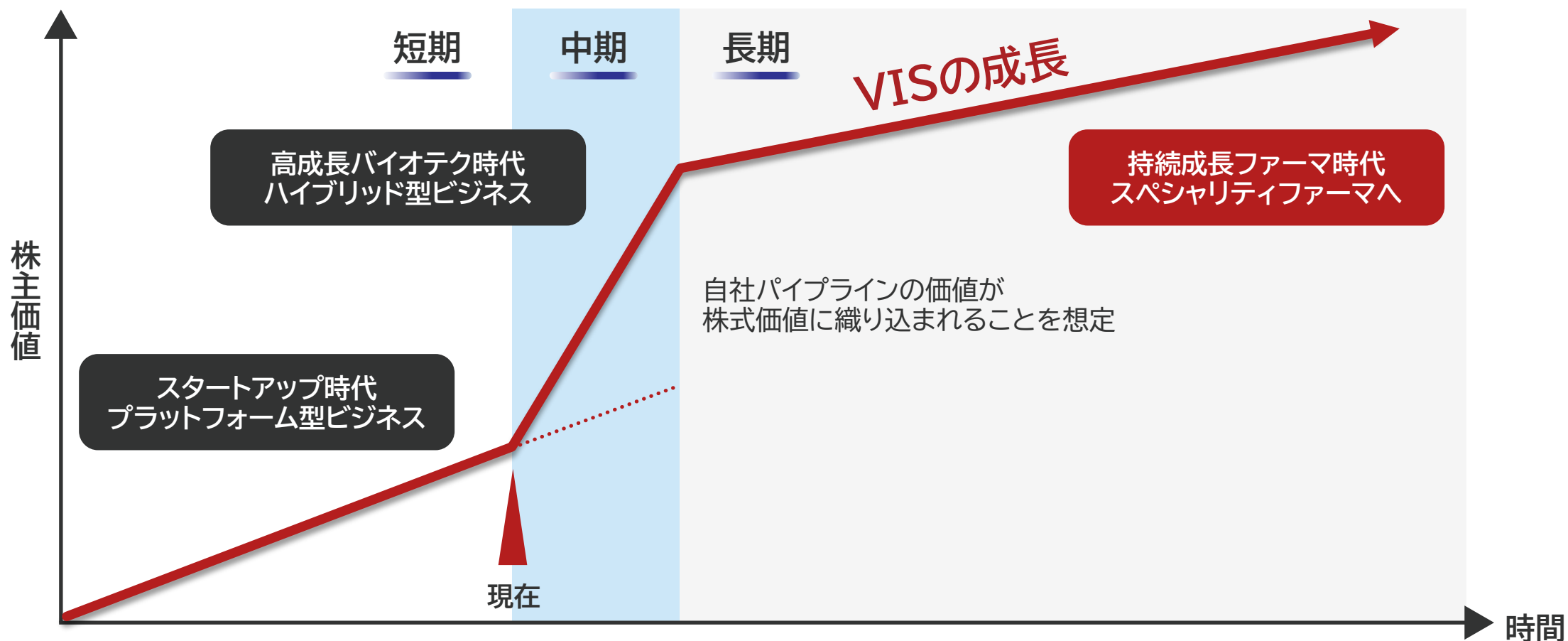
4 成長戦略

Growth Strategy

スタートアップ・バイオテック企業から持続成長可能なスペシャリティファーマへ

当社は現在、プラットフォーム型ビジネスから高成長を目指すハイブリッド型ビジネスへの転換を図っている

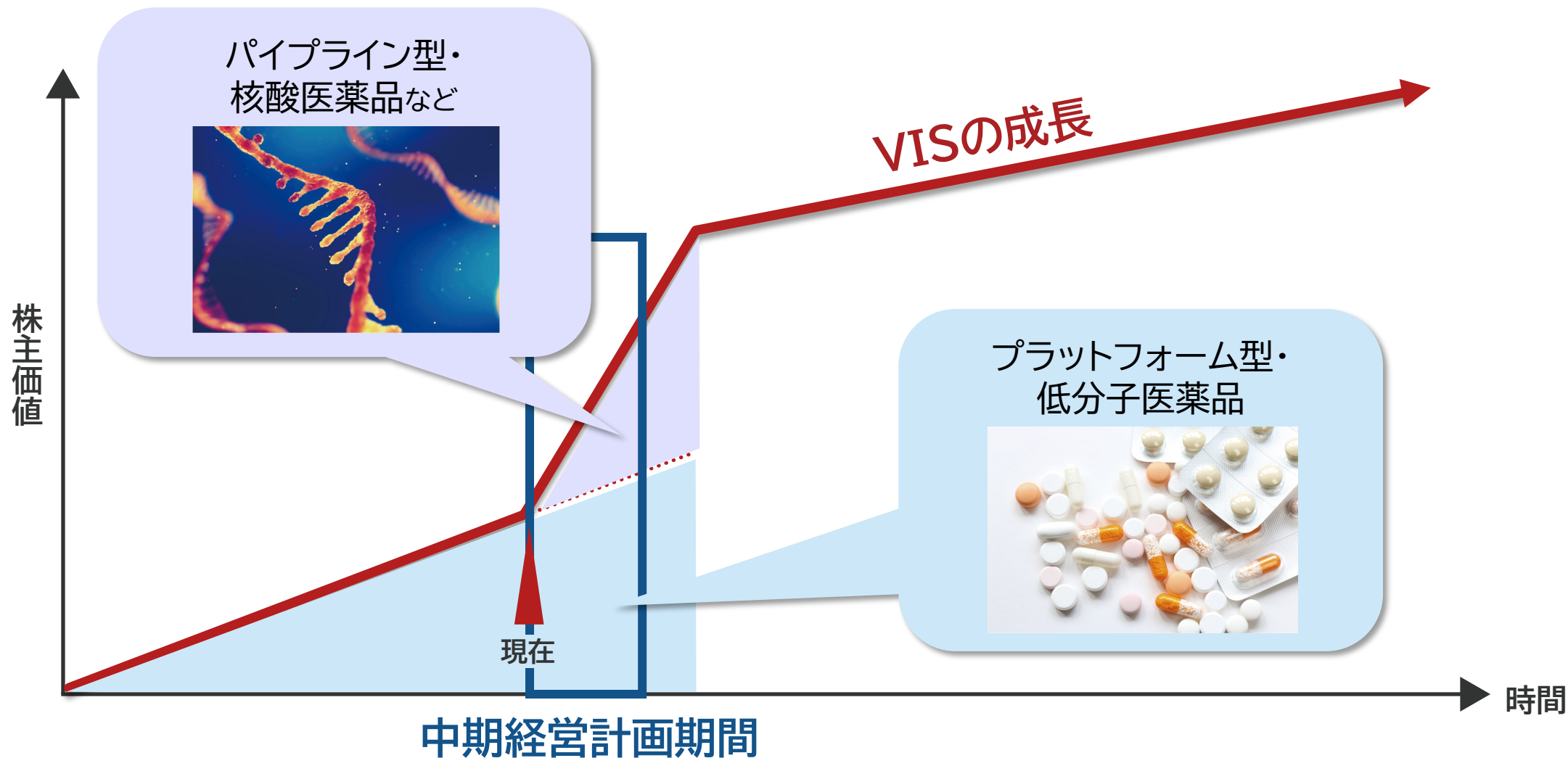
最終的には、持続的な成長を遂げるため、mRNA関連の創薬を主軸とし、研究開発・販売機能等を備えた製薬会社(スペシャリティファーマ)へ移行する方針



(注) あくまでも当社が目標とする成長のイメージであり、実際の時価総額の推移を示唆するものではありません

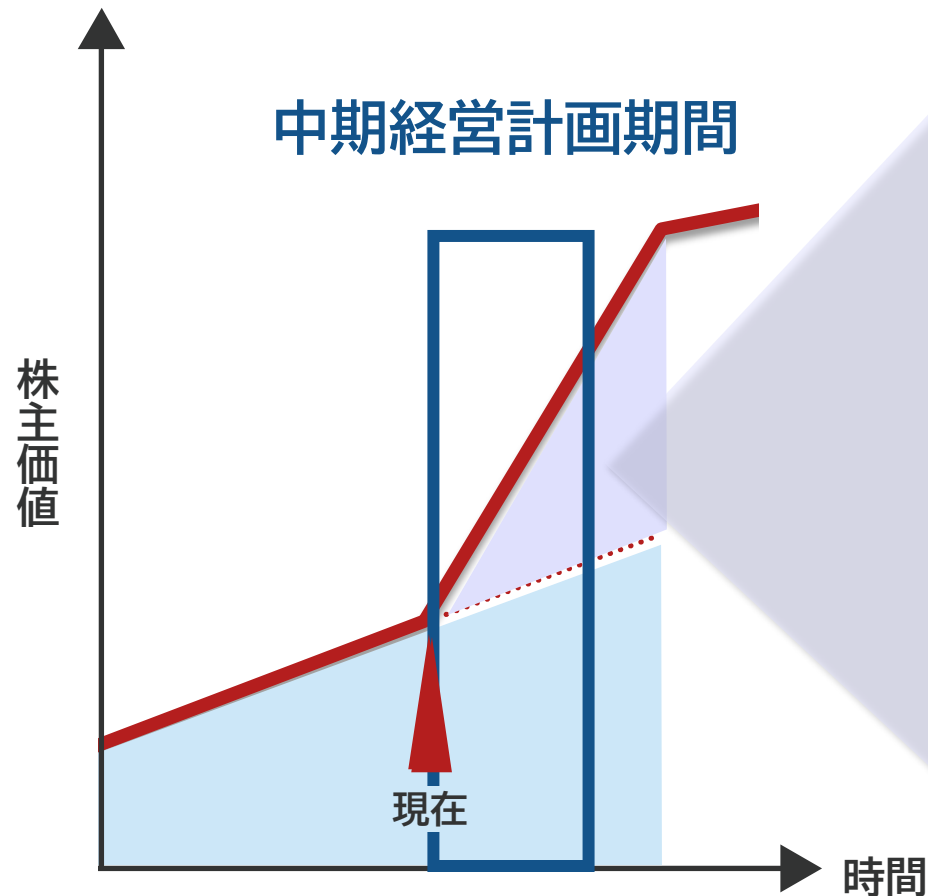
スペシャリティファーマの前段階としてハイブリッド型ビジネスに転換

mRNA標的 low molecular weight 医薬品のプラットフォーム型ビジネスを拡大しつつ、核酸医薬品を中心に自社パイプラインの創出を目指すことで、当社の株主価値の向上を図る



価値の高いパイプライン創出の開始と効率化に向けた取り組み

任意のmRNAを創薬対象とすることができる当社のibVIS®プラットフォームの技術的強みを活かし、現在価値の高いプロジェクトを開始する



パイプライン創出の方針

- 現在の株式価値に資する現在価値の高いパイプラインの創出
 - ・ 将来価値の総額が大きいもの
 - ・ 上市までの期間が短いもの
 - ・ 現在の株式価値において影響が大きい直近のコストを低減させるための施策
- 2025年の最初のパイプライン
 - ・ 研究期間の短い核酸医薬品を候補とする
 - ・ 上市までの期間が比較的短い希少疾患を創薬対象の候補とする
- より効率的なパイプライン創出
 - ・ 協力企業との研究業務や費用の分担
 - ・ アカデミアとの共同研究等の有効活用

2030年のVISのビジョンに向けた中期経営計画期間中の各年度目標

当社の2030年のビジョンは、「スペシャリティファーマとしての地歩を確立」すること。このビジョンを実現するため、2025年から2027年にかけてプラットフォーム型ビジネスに加えてパイプラインも保有するハイブリッド型ビジネスの確立を図る

【従来のKPI】

- ・事業収益額
- ・新規契約締結数

年間目標 **2社** → 2024年度 達成 **1社**

2024年度

プラットフォーム型
ビジネスの進展

ハイブリッド型
ビジネスの準備着手

2025年度

ハイブリッド型
ビジネス始動

- ・新規契約**4件**※4締結
- ・パイプライン1本目創出
- ・新川崎研究所移転準備

2026年度

- ・新規契約2件締結
- ・パイプライン2本目創出
- ・前臨床試験の開始
- ・新川崎研究所移転完了

2027年度

- ・新規契約2件締結
- ・パイプライン3本目創出
- ・前臨床試験対応

2030年度

スペシャリティファーマ
としての地歩を確立

【中期経営期間中のKPI】

- ・新規契約締結数※1
年間目標 **2社**
- ・パイプライン創出数※2
年間目標 **1本**
- ・事業収益額※3

※1 プラットフォーム事業の進捗を測定する目安とします
※2 2025年度からパイプライン型ビジネスを開始するにあたり、新たなKPIとして設定しました。特許の申請をもってパイプラインの創出とカウントします
※3 プラットフォーム事業とパイプライン事業の進捗のバランスを測定する目安とします
※4 2025年度には、2024年度に契約締結予定であった2件に加え、新規の契約2件、合計4件の契約締結を目標とします。新規2件のうち1件は、2024年12月にLCCと前倒しで契約締結済み

mRNA関連創薬の事業の多角化による持続的成長を目指す

当社のインシリコRNA構造解析は、mRNA関連の様々な創薬に応用可能。ハイブリッド型ビジネスに転換するにあたり、核酸医薬品を自社パイプラインの有力候補とする。これらに加え、アカデミア・企業との共同研究等を通じてmRNA医薬品とncRNA標的医薬品を事業の一つとすることで、将来的な事業の多角化を図る



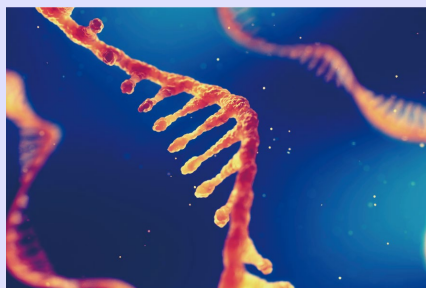
01



mRNA標的低分子医薬品

タンパク質標的の低分子創薬では技術的に解決できない治療ニーズや、抗体等、高価な治療法しかない治療ニーズへの解決策となる

02



核酸医薬品(mRNA標的)

副作用が少なく細胞膜透過性の高いシンプルな核酸医薬を創出する希少疾患の治療ニーズへの解決策となる

03



mRNA医薬品

医療用のmRNAの配列を設計するタンパク質補充療法に代わる治療ニーズへの解決策となる

04



ncRNA標的医薬品

タンパク質の設計図ではないRNA(ncRNA)を制御する低分子医薬品・核酸医薬品を創出する

核酸医薬品のパイプライン候補およびその他プロジェクト

当社では、最短8か月で核酸医薬品を創出する技術を保有している
希少疾患を中心に、2025年の新規自社パイプラインの候補となる2つの核酸医薬品プロジェクトを既に保有している



(注) 特許6934695号 核酸医薬とその使用

三菱ガス化学との核酸医薬の研究・開発・製造の共同事業に関する覚書締結

三菱ガス化学(MGC)との核酸医薬の共同事業を通じて、核酸医薬の品質向上や製造過程管理を当初より考慮した創薬を行うことを意図
開発以降のプロセスがスムーズに進められるほか、将来の商業製造等の成功確率も高めることが期待できる

URL: <https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS82025/5f77c3b6/72ed/42c9/ae0c/b41840ee1416/140120241002592959.pdf>



- **当社の狙い**
いち早い核酸医薬のパイプライン創出
(物質特許の取得)
- **MGCの狙い**
医薬品開発製造受託事業に資する核酸
医薬品の新しい製造方法の確立

MGCと覚書締結 (10/9リリースの内容)

MGCは核酸医薬を今後成長が見込める市場ととらえ、
核酸医薬の医薬品開発製造受託事業での参入を検討

当社が核酸医薬品を創出する際に、当初より製造・精製段階の
観点を考慮することで、効率的な合成方法が確立されていない
核酸医薬品の品質の担保とコストダウンを図る

共同事業の開始に向けた検討が進行中

日本におけるプラットフォーム事業の実績をもとにした海外展開

2023年6月の武田薬品を皮切りに、大手製薬会社や海外製薬会社を創薬パートナーとして獲得してさらなる事業拡大を図る
フランスのOncodesign Servicesとの事業協力および英国のLCC Therapeuticsとの事業提携を通じて海外展開に注力

欧州主要ファーマ



2023年5月 事業協力開始



2024年12月 事業提携開始

欧州企業

3 / 7 社

CDA締結中

14Si



2023年6月
共同創薬研究開始

米国主要ファーマ

2025年2月13日現在

社会や環境の持続可能性に配慮した経営

製薬会社やアカデミアとの連携を通じて医薬品の創出に真摯に取り組むことにより、より多くの患者さまの健康と福祉に貢献する
社会の科学技術力の向上や働きがいのある企業風土の醸成等を通じて、社会や環境の持続可能性に配慮した経営を実践する

事業活動に内在 した取り組み

- 希望に満ちたあたたかい社会
を実現するために
- ◆ 新規の創薬技術で未だ満たされない医療ニーズに応える
 - ◆ 創薬パートナーと革新的な医薬品の創出に取り組む

事業基盤を構築 する取り組み

- ◆ 優秀な人材の確保と育成
- ◆ 働きがいのある企業風土の醸成
- ◆ 人材の多様化と一人ひとりを活かす組織づくり
- ◆ 働きやすい職場環境（年次有給休暇取得の促進）
- ◆ 従業員の健康管理・増進
- ◆ グリーン購入法に沿った購買

サステナブルな社会の実現 科学技術の持続性 に向けた取り組み

- ◆ mRNAに関するアカデミアとの共同研究を通じた当社の科学力の向上
- ◆ 大学等教育機関での講義・講演を通じたアカデミアに対する貢献

社会の科学力の持続性に向けた取り組み

アカデミアとの共同研究や講義・講演を通じてアカデミアと良好な関係を構築するとともに、当社創薬技術の向上ひいては日本の科学技術界に貢献する
また、日本学術会議でも講演し、バイオテク育成についての提言を行うなど、持続可能な社会の実現に積極的に関与する

mRNAに関するアカデミアとの共同研究

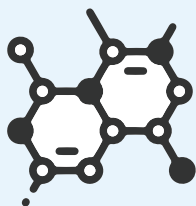
大阪大学 2件

千葉工業大学

上智大学

東京農工大学

甲南大学



mRNA標的
低分子医薬品

新潟薬科大学

東京慈恵会医科大学

Stanford大学



核酸医薬品

教育機関等での講義・講演

毎年実施の講義

東京科学大学

千葉工業大学

2024年実施の社長講演

日本学術会議化学委員会合同会議

文部科学省 JASIS2024セミナー

日経ビジネスフォーラム

バイオインダストリー協会(JBA)

有機合成化学協会

mRNAターゲット創薬研究機構

LINK-J 創薬のフロンティア

第41回メディシナルケミストリーシンポジウム



5 事業概要

Business Overview

mRNA標的低分子医薬品および核酸医薬品の創出に取り組むバイオテック企業

会社名	株式会社Veritas In Silico (VIS)
設立	2016年11月17日
本社	東京都品川区西五反田一丁目11番1号
事業所	基礎研究部門:神奈川県川崎市 応用研究部門:新潟県新潟市
代表者	代表取締役社長 中村 慎吾
従業員数	19名 (2024年12月末現在)
資本金	77,175千円 (2024年12月末現在)
事業内容	独自の創薬プラットフォーム ibVIS® により、 製薬会社と共同創薬研究を通じて、 mRNA標的 low molecular weight 医薬品の創出に取り組む 2025年より、核酸医薬品を中心に自社パイプ ライン創出にも取り組む



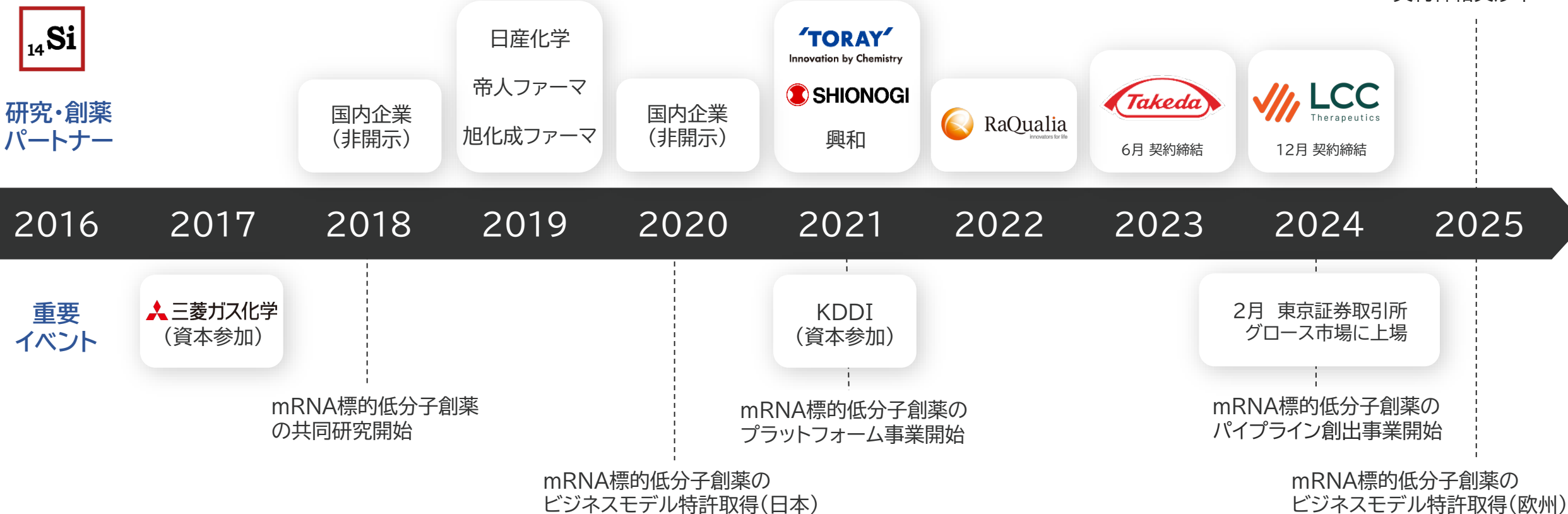
新川崎研究所
(かわさき新産業創造センター内)



新潟研究所
(新潟薬科大学内)

設立以降、実績を積み上げて着実にmRNA標的的低分子事業を拡大

事業会社からの支援のもと、特徴ある研究・創薬パートナーと共にmRNA標的的低分子創薬を推進



mRNA標的的低分子創薬を実現させた当社創立者のバックグラウンド

当社設立後、中村はバックグラウンドを最大限活用してmRNA標的的低分子創薬事業を本格化

三度にわたる資金調達ラウンドを成功させ、2024年2月にはIPOを達成



代表取締役社長
中村 慎吾 PhD

創薬研究から事業開発、営業、
企業経営、バイオテック企業への投資に
至るまで幅広い実務経験を有する



実務経験豊富なマネジメントチーム

製薬・バイオ業界において豊富な実務経験を有する経営陣及びその経営を監査する幅広い経験を持つ監査役が一丸となり事業推進に取り組む



取締役・管理部長
萩原 宏昭

管理部門として30年以上の実務経験を持ち、当社を含め2度IPOを成功させた経験を有する



取締役・事業開発部長
甲田 伊佐男 PhD

医薬品の創薬研究、臨床開発から事業開発に従事し、医薬品業界で40年以上(そのうち米国で約15年)の実務経験を有する



社外取締役・独立役員
小南 欽一郎 PhD

テック&フィンストラテジー株式会社
代表取締役

九州大学にて教員を勤めた後、野村証券等でバイオアナリストとして活動し、バイオテック業界に幅広い人脈を有する



常勤監査役
鈴木 貞雄

生命保険会社による資産運用実務経験及び常勤監査役としての豊富な実務経験を有する



社外監査役
廣岡 穰

廣岡公認会計士事務所 所長
公認会計士・税理士

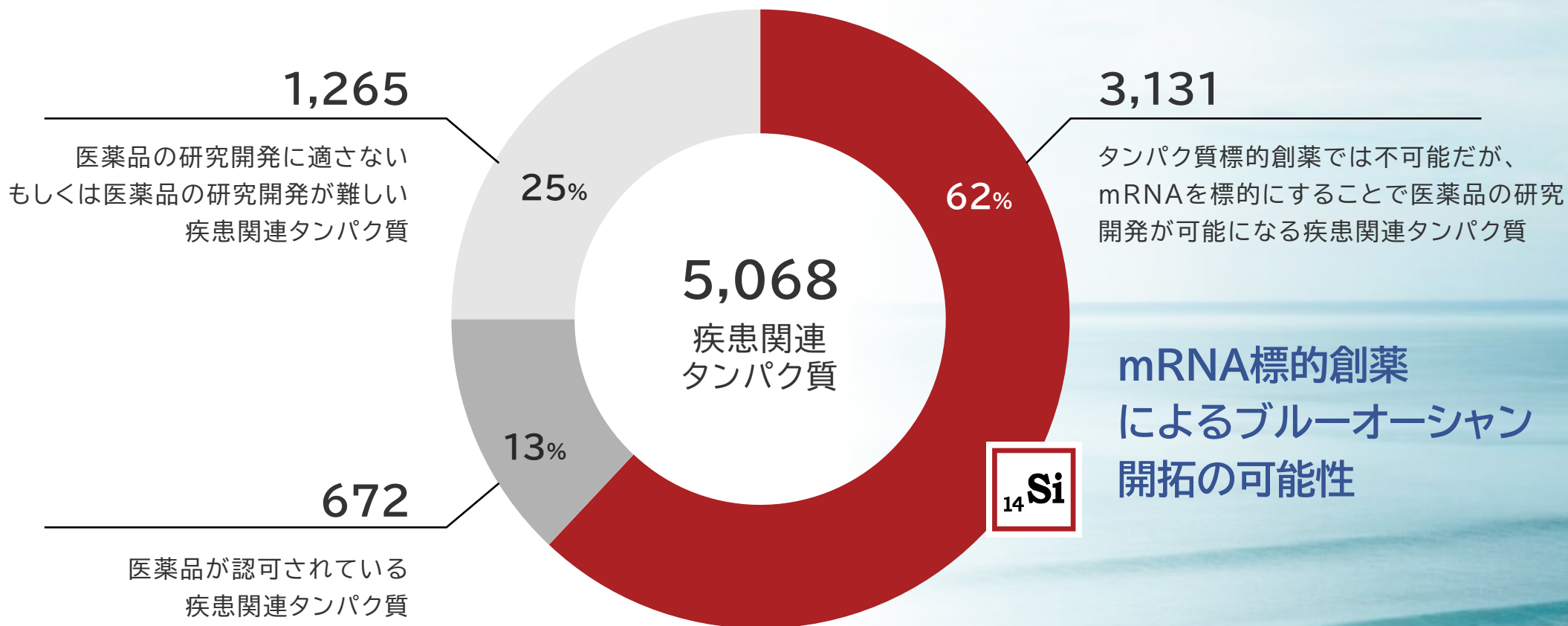


社外監査役
若林 美奈子

Orrick, Herrington & Sutcliffe
LLP/オリック東京法律事務所・
外国法共同事業 東京オフィス代表
弁護士(マネージングパートナー)

治療“できない”を“できる”にするmRNA標的創薬

従来のタンパク質を創薬標的とした創薬技術では“Undruggable(創薬不可能)”な疾患もmRNAを創薬標的とすることで“Druggable(創薬可能)”に疾患関連タンパク質の半数以上を占める、アンメット・メディカル・ニーズ(有効な治療方法がない疾患に対する医療ニーズ)にこたえていける可能性がある



出典: The Human Protein Atlas, DrugBank, KS analysis, 2018 をもとに当社にて作成

mRNAを標的とした低分子医薬品でブルーオーシャンを開拓

当社は、タンパク質の設計図であるmRNAを創薬標的として、経口投与が可能で医療経済的に望まれている低分子医薬品の創出を目指す
新しいブルーオーシャン戦略によって低分子創薬の課題が解決されるため、将来的な市場の成長が期待される

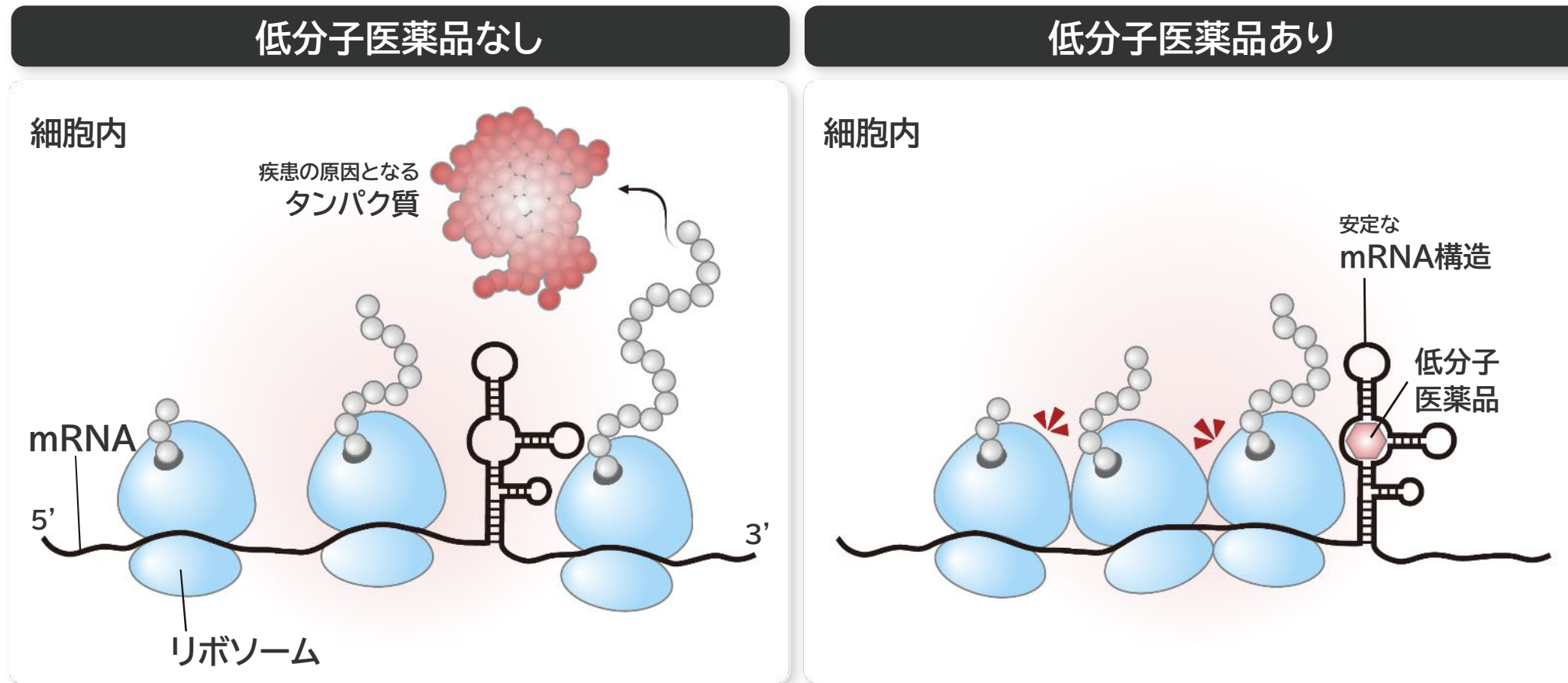


(注) mRNA標的の低分子医薬品の研究開発は世界的に見てもほとんどが研究段階であり、本創薬で上市された低分子医薬品はありません(2024年12月末現在)

さまざまな疾患の治療に適用できる汎用性のある作用メカニズム

細胞内では、タンパク質の設計図であるmRNAの情報をリボソームが左から右(下図)に読み取ることでタンパク質が合成される

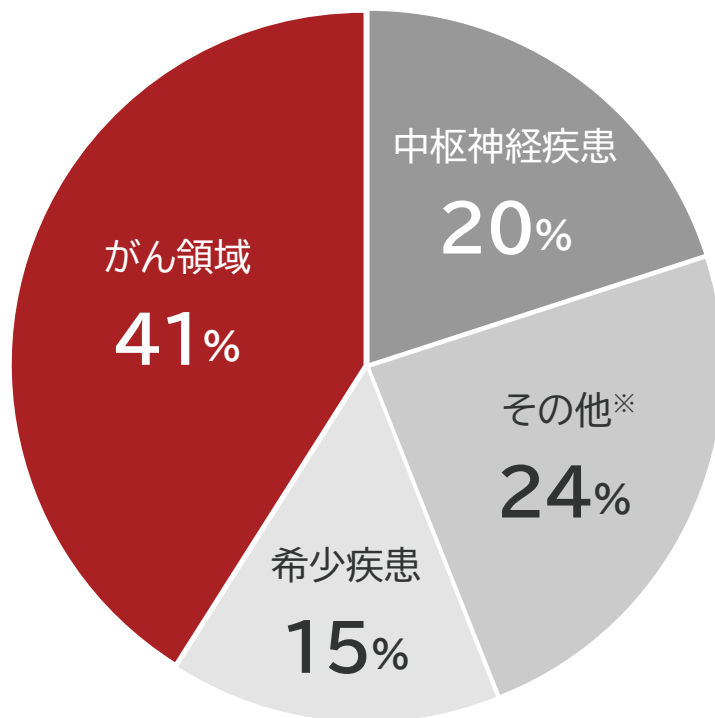
低分子医薬品によりmRNA上の構造が安定化されると、リボソームはmRNAの情報を読み進めることができなくなりタンパク質の合成はストップする



創薬プラットフォームibVIS®で未だ満たされない医療ニーズに応える

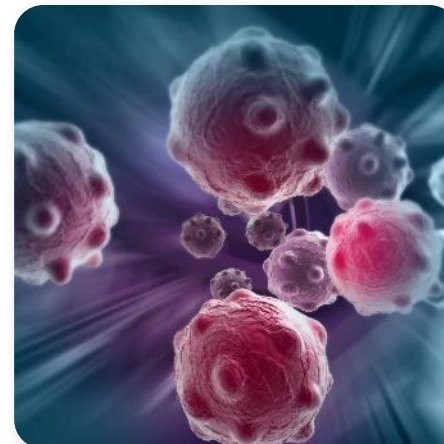
当社の創薬プラットフォームibVIS®を紹介した製薬会社から開示された創薬対象遺伝子は100以上で、疾患領域は多種多様である
創薬の専門家から見ても、ibVIS®は様々な疾患に適用可能であることを示唆している。特にがん領域への期待が大きく、中枢神経疾患がそれに続く

創薬対象遺伝子からわかる疾患領域(注)



※ 循環器疾患、免疫疾患、感染症などを含む

(注) 2024年12月末現在において製薬会社から開示された創薬対象遺伝子に基づき当社にて作成



がん領域

従来のタンパク質標的創薬では治療できないがんが多く存在する。患者数が多いため、大量供給可能な低分子新薬の開発が望まれる



中枢神経疾患

脳(中枢神経)では、血液脳関門(BBB)により抗体医薬品等がブロックされてしまうため、中枢神経疾患の治療にはBBBを通過する低分子医薬品が有効



理念

mRNA標的低分子創薬で 希望に満ちたあたたかい社会の実現を

創薬のフロンティアを
切り拓くパスファインダー
(Pathfinder)として

どんな疾患の患者さまも
最適な治療が
受けられるように

2024年12月期通期ハイライトおよび2025年12月期の業績予想

mRNA標的的低分子創薬事業(プラットフォーム型ビジネス)は順調に推移

創薬プラットフォームibVIS®を活用し製薬会社4社との共同創薬研究を実施中
武田、塩野義とのマイルストーン達成、ラクオリア創薬と目標とする特性を細胞レベルで示す低分子化合物を複数取得する等の成果を得た

ハイブリッド型ビジネスへの転換に向けて自社パイプラインを創出できる体制を整備

かねてより進めていた当社独自の核酸医薬品の研究を本格化し、核酸医薬品のパイプライン事業化に向けて取り組み中
低分子医薬品の自社パイプライン創出の実現性を高めるため、2024年12月に英国LCC TherapeuticsとmRNA
標的的低分子医薬品の共同開発及び商業化契約を締結

通期の事業収益は194百万円、純損失は236百万円

事業収益は、期ずれによって新規の契約一時金がなく、研究支援金、マイルストーン収入等により194百万円を計上
自社パイプライン構築のために増加した事業費用407百万円、上場関連費用等22百万円等の計上により、当期純損失は236百万円

2025年12月期は黒字回復を見込む

事業収益は、新規の製薬会社との共同創薬研究契約締結に伴う契約一時金等により前期比で593百万円の増収、
事業費用は、研究開発費等の増加により前期比で217百万円増加を予想、当期純利益は168百万円を見込む

